

8. 公民館での活動の実態とニーズ

(1) 公民館の認知率

回答者が、自分が居住している地域に公民館があることを知っているのかどうかをみたのが、図 59 である。

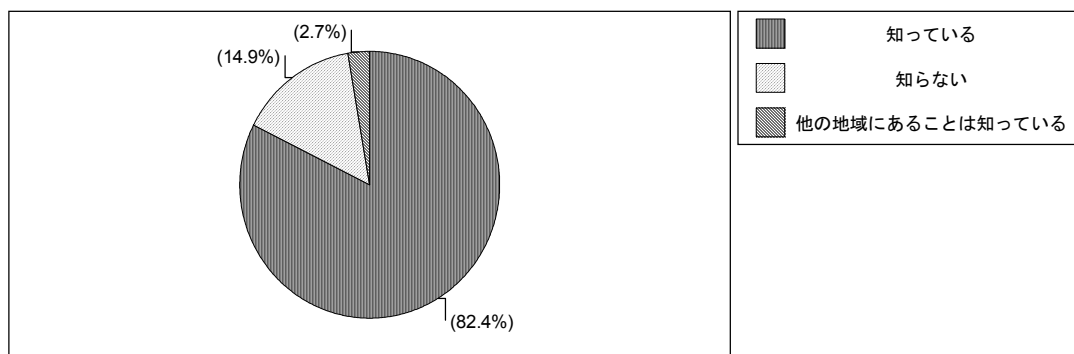


図 59 公民館の認知率

その結果、「知っている」と回答した人の率は、82.4%であった。これを性別にみたのが、図 60 である。

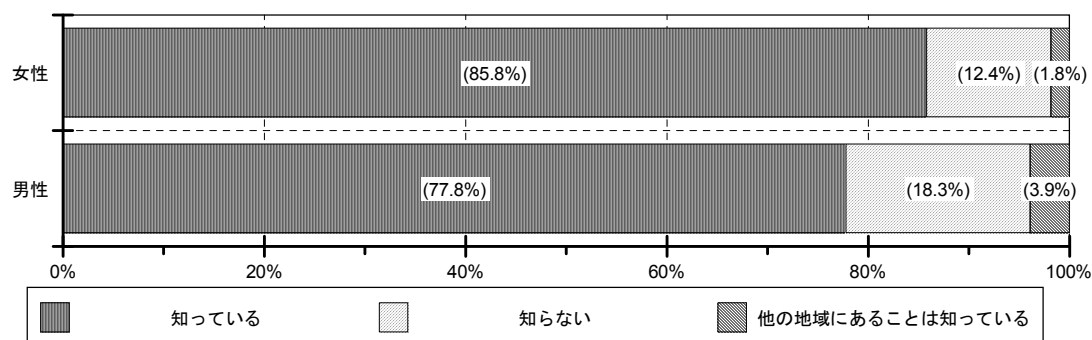


図 60 性別にみた公民館の認知率

その結果、公民館の認知率は、「女性」で 85.8%。「男性」で 77.8%であり、「女性」の率が高くなっていた。

次に、年代別にみたのが、図 61 である。

その結果、公民館の認知率は、「成人前期」の人で 65.7%、「成人中期」の人で 83.8%、「成人後期」の人で 90.5%であり、認知率は、年代が高くなるにつれて高まる傾向が認められた。

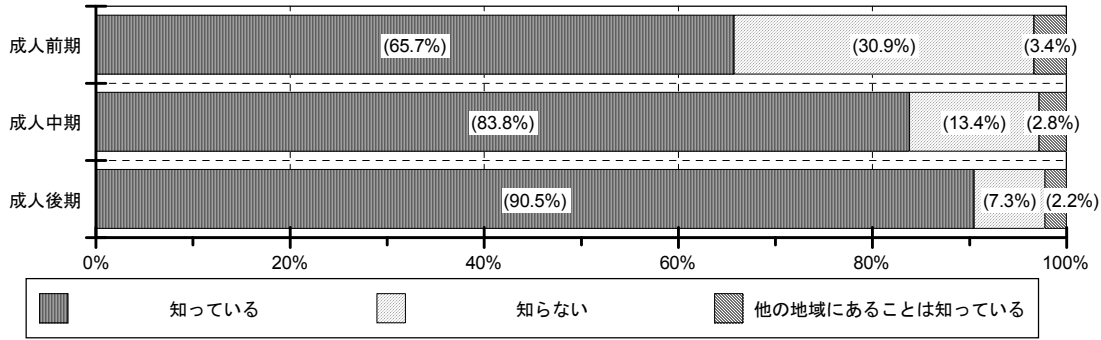


図 61 年代別にみた公民館の認知率

(2) 公民館利用の実態

1) 公民館の利用経験

回答者の公民館の利用経験をみたのが、図 62 である。

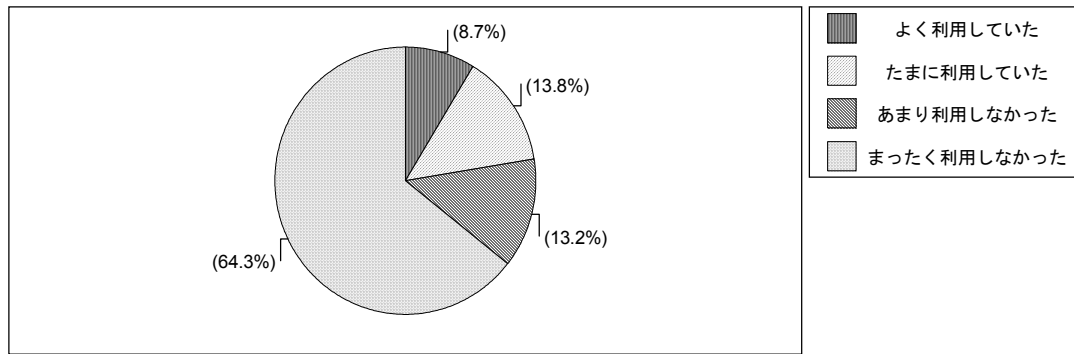


図 62 公民館の利用経験

その結果、公民館を「よく利用していた」と回答した人の率は 8.7%、「たまに利用していた」人の率を合わせると、22.5%の人が公民館を「利用していた」と回答していた。

これを性別にみたのが、図 63 である。

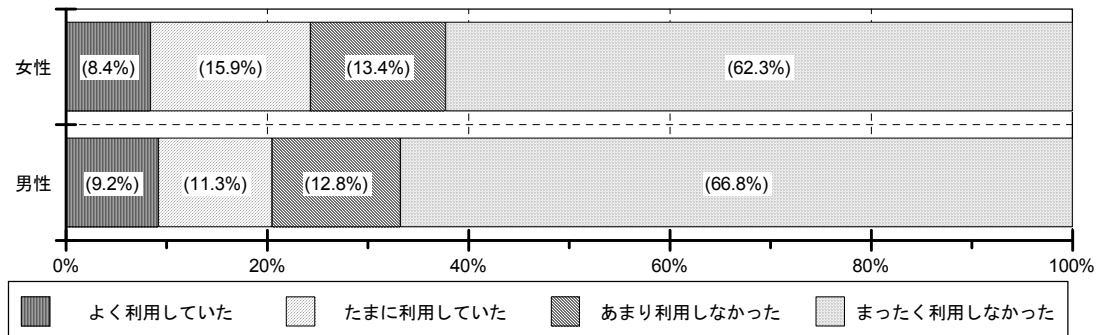


図 63 性別にみた公民館の利用経験

その結果、「利用していた」と回答した人の率は、「女性」で 24.3%、「男性」で 20.5%であり、男女間に明確な差は認められなかった。

次に年代別にみたのが、図 64 である。

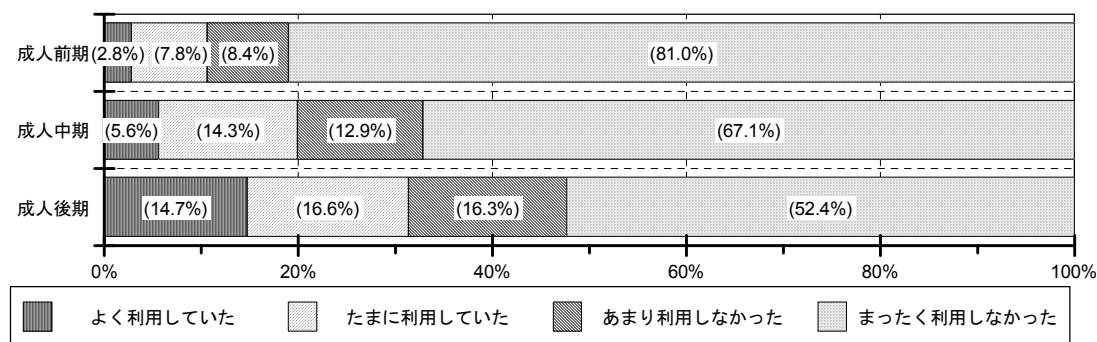


図 64 年代別にみた公民館の利用経験

その結果、「利用していた」と回答した人の率は、「成人前期」の人で 10.6%、「成人中期」の人で 19.9%、「成人後期」の人で 31.3%であり、その率は、年代が高くなるにつれて高まる傾向が認められた。

2) 公民館利用の目的

公民館利用の目的をみたのが、図 65 である。

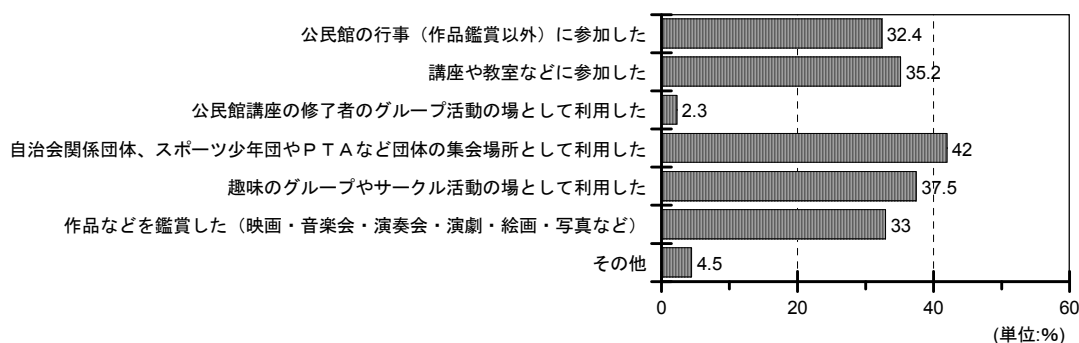


図 65 公民館利用の目的

その結果、目的としては、「自治会関係団体、スポーツ少年団やPTAなど団体の集会場所として利用した」と回答した人の率が 42.0%でもっとも高く、次いで「趣味のグループやサークル活動の場として利用した（37.5%）」、「講座や教室などに参加した（35.2%）」の順となっていた。

これを性別にみたのが、図 66 である。

その結果、男女とも「自治会関係団体、スポーツ少年団やPTAなど団体の集会場所として利用した」と回答した人の率ももっとも高いことは共通していたが、次いで「女性」では「趣味のグループやサークル活動の場として利用した」、「公民館の行事（作品鑑賞以外）に参加した」の順、「男性」では「講座や教室などに参加した」、「趣味のグループやサークル活動の場として利用した」と「作品などを鑑賞した（映画・音楽会・演奏会・演劇・絵画・写真など）」の順となっていた。

相対的にみると、「公民館の行事（作品鑑賞以外）に参加した」と「趣味のグループやサークル活動の場として利用した」では「女性」の率が高くなっていた。

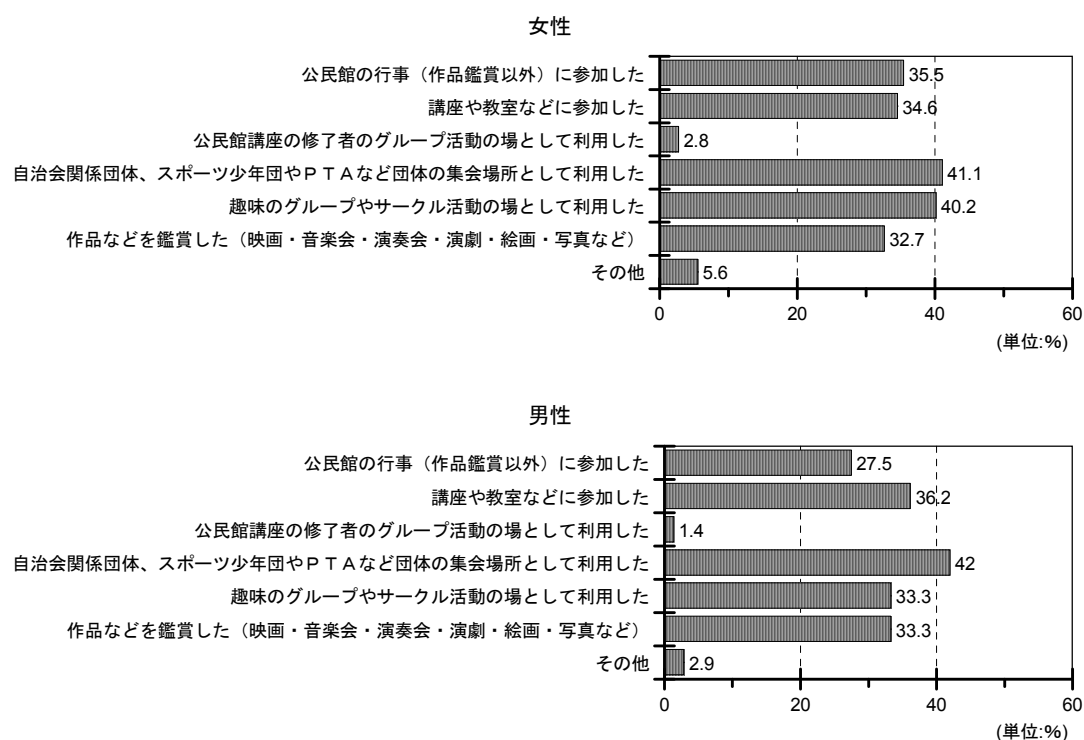


図 66 性別にみた公民館利用の目的

次に年代別にみたのが、図 67 である。

その結果、「成人前期」の人では、「公民館の行事（作品鑑賞以外）に参加した」と「自治会関係団体、スポーツ少年団やPTAなど団体の集会場所として利用した」と回答した人の率をもっとも高く、次いで「趣味のグループやサークル活動の場として利用した」となっていた。次に「成人中期」の人では、「自治会関係団体、スポーツ少年団やPTAなど団体の集会場所として利用した」と回答した人の率をもっとも高く、次いで「趣味のグループやサークル活動の場として利用した」、「作品などを鑑賞した（映画・音楽会・演奏会・演劇・絵画・写真など）」の順となっていた。そして「成人後期」の人では「講座や教室などに参加した」と回答した人の率をもっとも高く、次いで「趣味のグループやサークル活動の場として利用した」、「自治会関係団体、スポーツ少年団やPTAなど団体の集会場所として利用した」の順となっていた。

相対的にみると、「自治会関係団体、スポーツ少年団やPTAなど団体の集会場所として利用した」では「成人中期」の人の、「講座や教室などに参加した」、「趣味のグループやサークル活動の場として利用した」、「作品などを鑑賞した（映画・音楽会・演奏会・演劇・絵画・写真など）」では「成人後期」の人の率が高くなっていた。

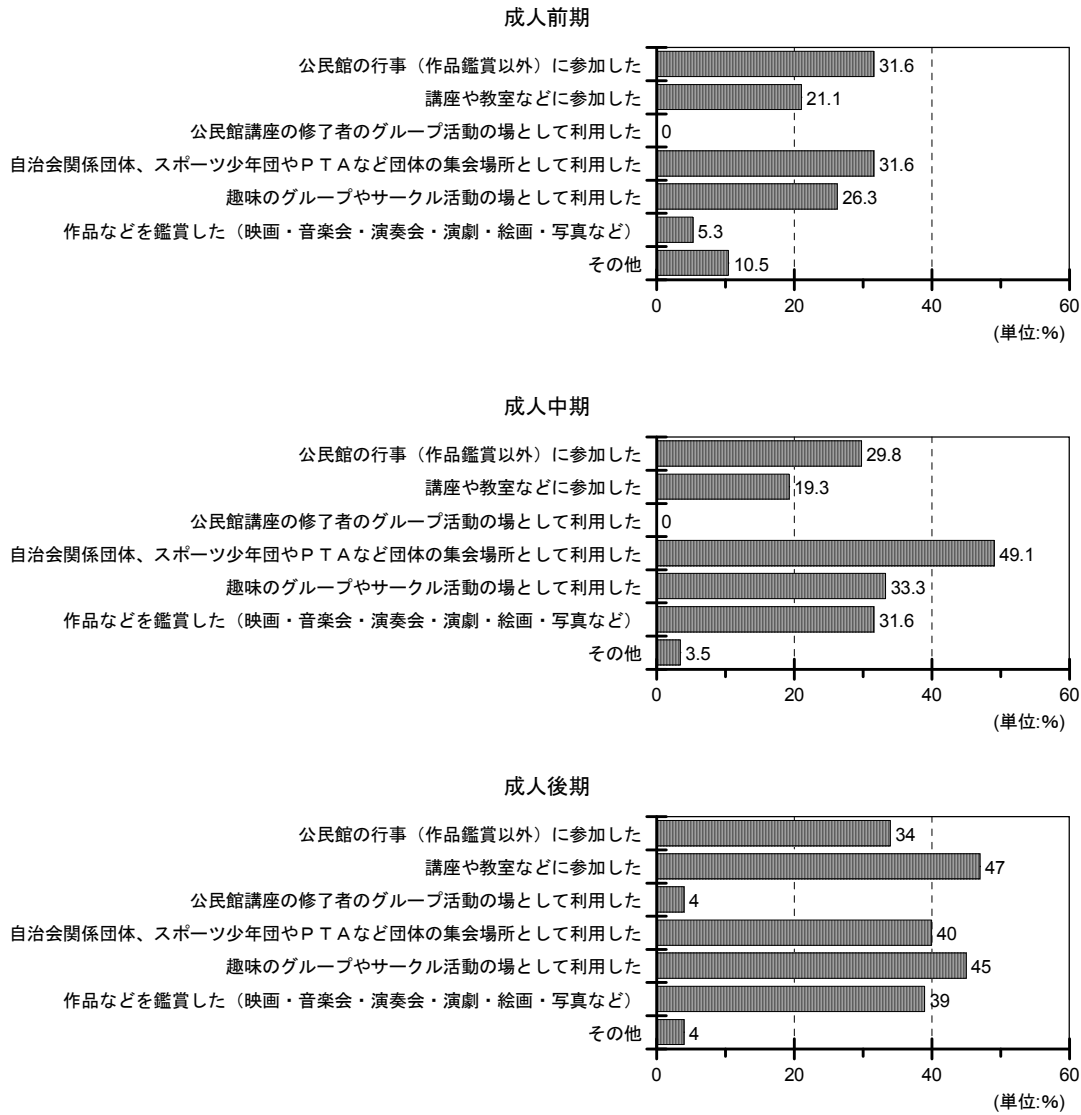


図 67 年代別にみた公民館利用の目的

3) 公民館での講座・教室への参加経験

公民館を「利用していた」人の講座・教室への参加経験をみたのが、図 68 である。

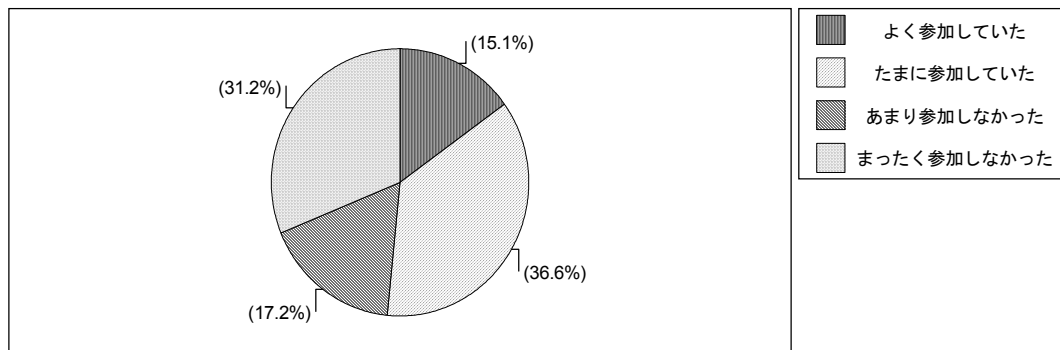


図 68 公民館での講座・教室への参加経験

その結果、公民館での講座・教室に「よく参加していた」と回答した人の率は15.1%、「たまに参加していた」人の率を合わせると、51.7%の人が公民館での講座・教室に「参加していた」と回答していた。

これを性別にみたのが、図 69 である。

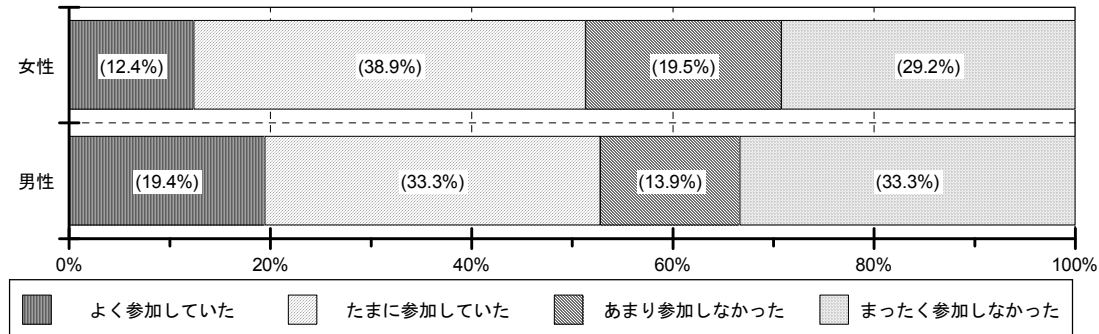


図 69 性別にみた公民館での講座・教室への参加経験

その結果、「参加していた」と回答した人の率は、「女性」で51.3%、「男性」で52.7%であり、男女間に明確な差は認められなかった。

次に年代別にみたのが、図 70 である。

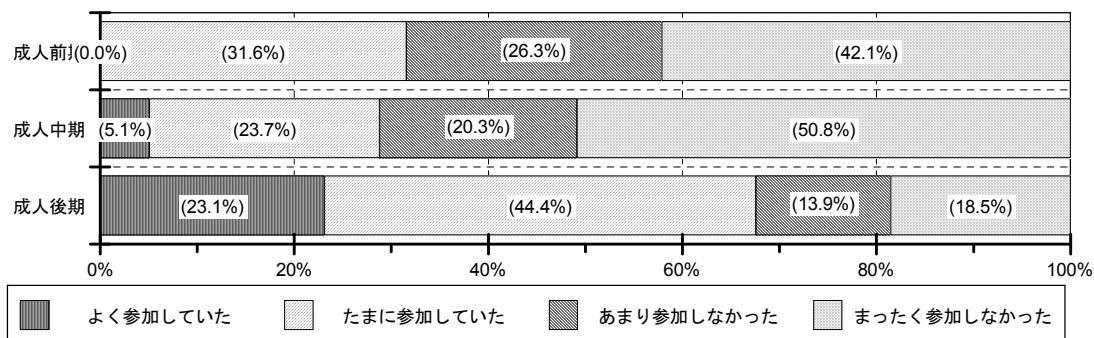


図 70 年代別にみた公民館での講座・教室への参加経験

その結果、「参加していた」と回答した人の率は、「成人前期」の人で31.6%、「成人中期」の人で28.8%、「成人後期」の人で67.5%であり、「成人後期」の人の率が高くなっていた。

4) 参加した講座・教室の内容

公民館の講座・教室に「参加していた」人の、講座・教室の内容をみたのが、図 71 である。

その結果、講座・教室の内容としては、「健康づくり」をあげた人の率が50.0%でもっとも高く、次いで「趣味的なもの(44.7%)」、「教養的なもの(31.3%)」と「社会的なもの(31.3%)」の順となっていた。

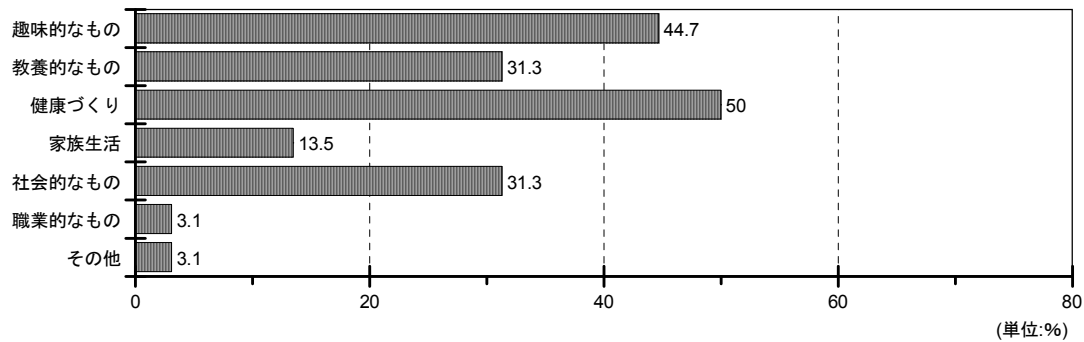


図 71 参加した講座・教室の内容

次に性別にみたのが、図 72 である。

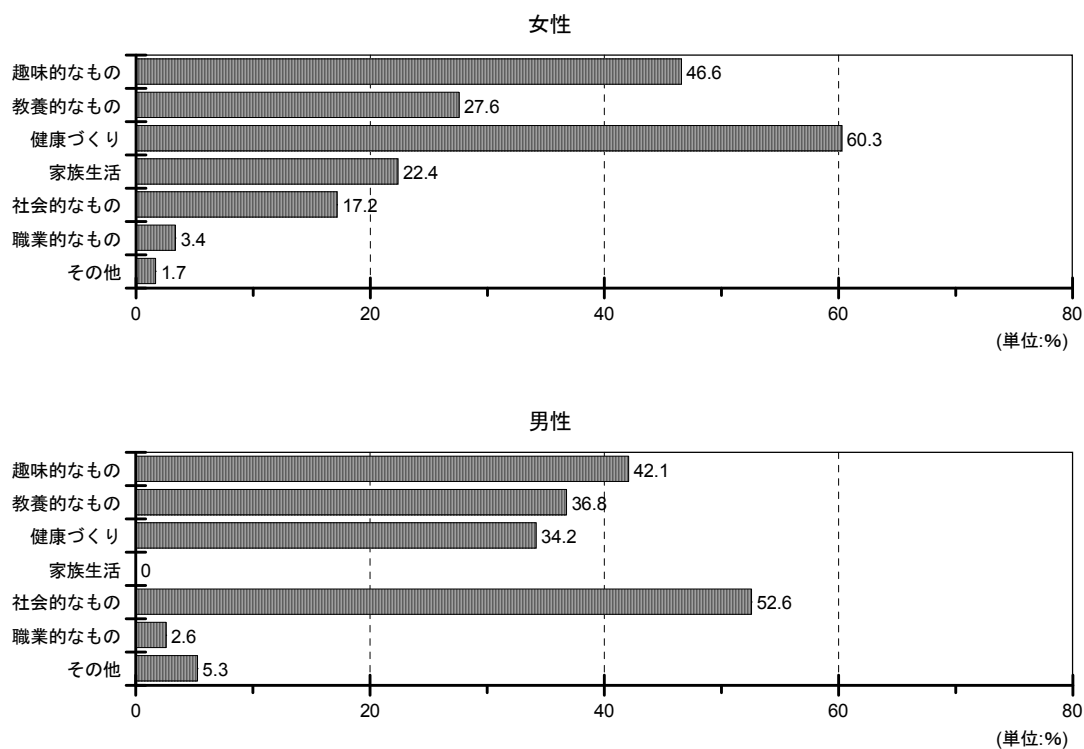


図 72 性別にみた参加した講座・教室の内容

その結果、「女性」では、「健康づくり」をあげた人の率が 60.3%でもっとも高く、次いで「趣味的なもの (46.6%)」、「教養的なもの (27.6%)」の順となっていた。一方、「男性」では、「社会的なもの」をあげた人の率が 52.6%でもっとも高く、次いで「趣味的なもの (42.1%)」、「教養的なもの (36.8%)」の順となっていた。

相対的にみると、「健康づくり」と「家族生活」では「女性」の、「教養的なもの」と「社会的なもの」では「男性」の率が高くなっていた。

次に年代別にみたのが、図 73 である（「成人前期」の人については、回答者が 10 人未満であったため、分析対象から除外している。）。

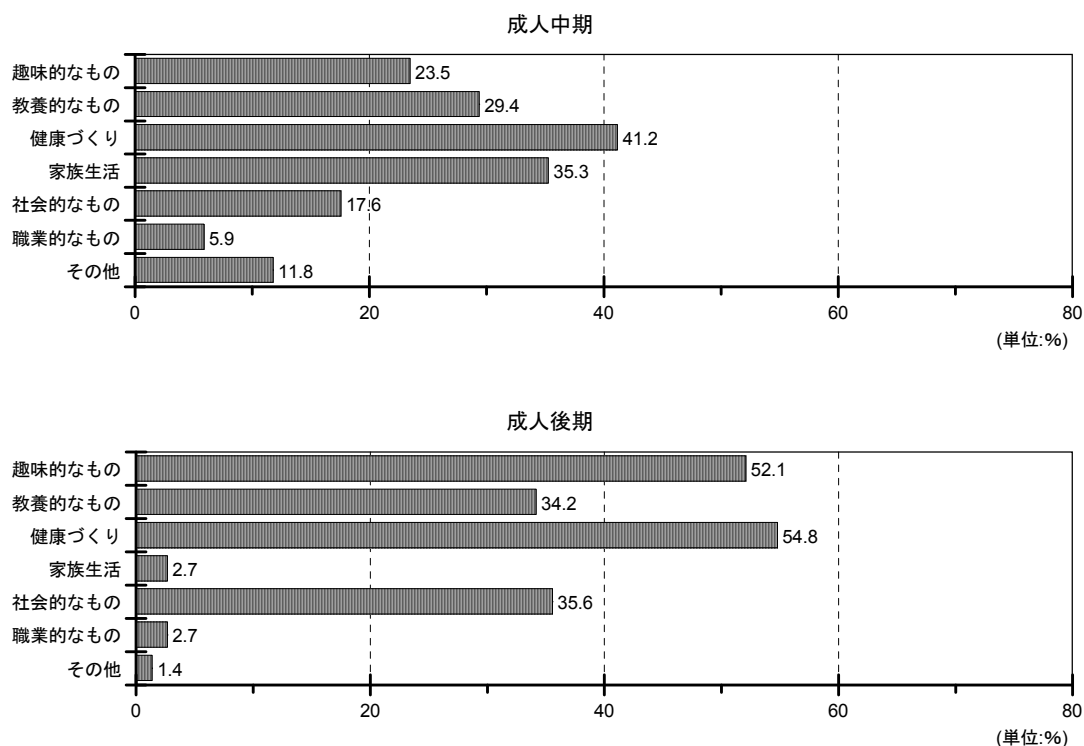


図 73 年代別にみた参加した講座・教室の内容

その結果、どちらの年代でも「健康づくり」をあげた人の率が高かったことは共通していたが、次いで「成人中期」の人では「家族生活」、「教養的なもの」の順、「成人後期」の人では「趣味的なもの」、「社会的なもの」の順となっていた。

相対的にみると、「家族生活」では「成人中期」の人の、「趣味的なもの」、「教養的なもの」、「健康づくり」、「社会的なもの」では「成人後期」の人の率が高くなっていた。

5) 講座・教室に参加しなかった理由

公民館での講座・教室に参加しなかった理由をみたのが、図 74 である。

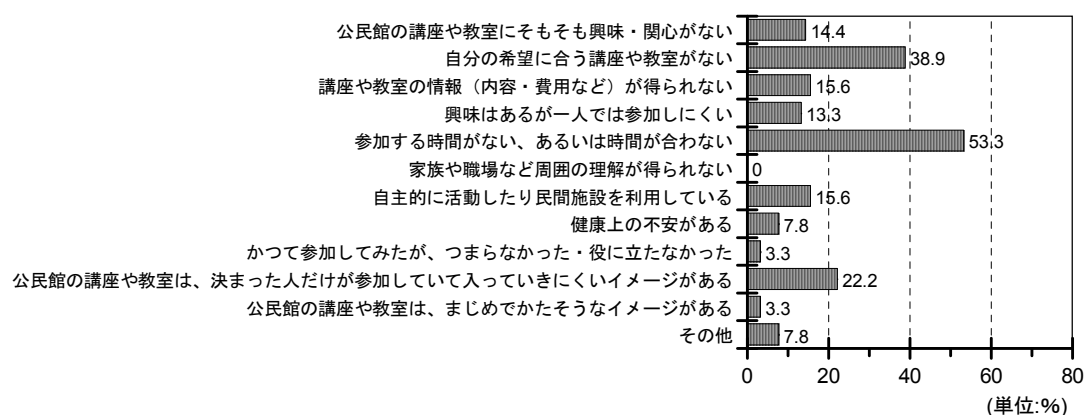


図 74 講座・教室に参加しなかった理由

その結果、理由としては、「参加する時間がない、あるいは時間が合わない」をあげた人の率が 53.3%でもっとも高く、次いで「自分の希望に合う講座や教室がない (38.9%)」、「公民館の講座や教室は、決まった人だけが参加していて入っていきにくいイメージがある (22.2%)」の順とな

っていた。

これを性別にみたのが、図 75 である。

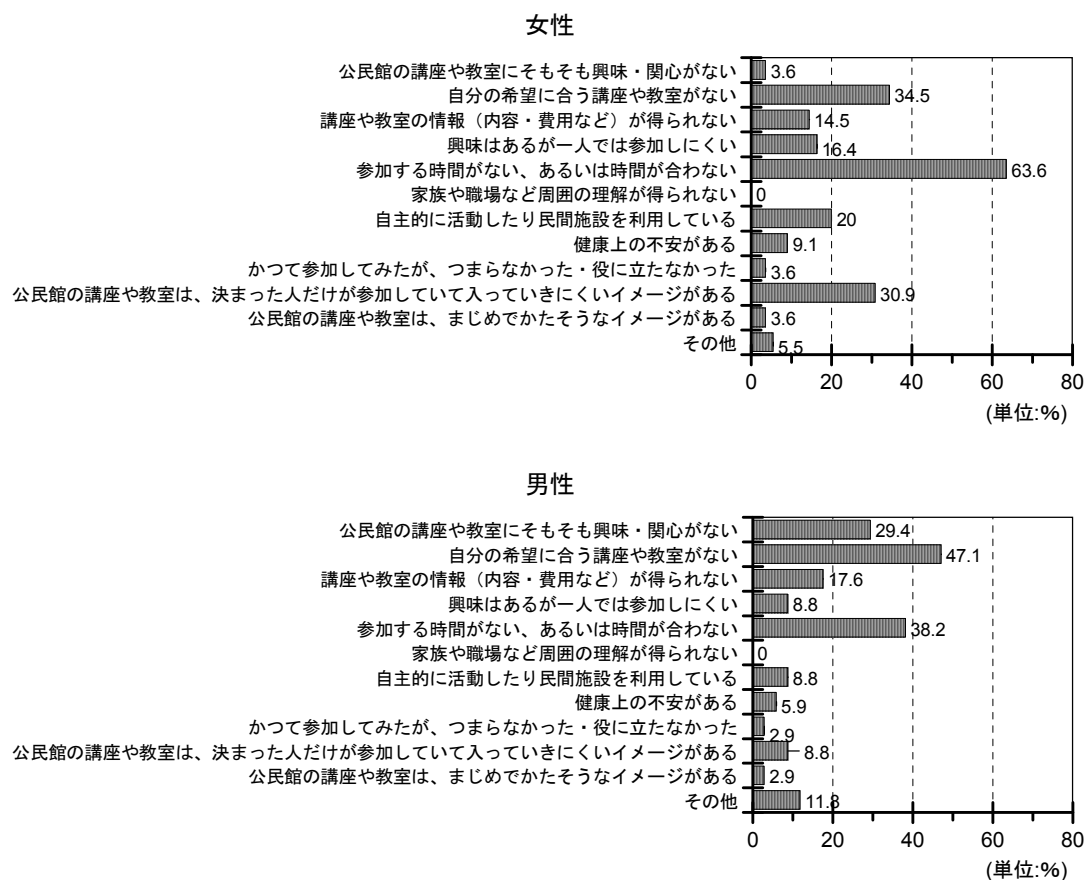


図 75 性別にみた講座・教室に参加しなかった理由

その結果、「女性」では「参加する時間がない、あるいは時間が合わない」をあげた人の率が 63.6%でもっとも高く、次いで「自分の希望に合う講座や教室がない (34.5%)」、「公民館の講座や教室は、決まった人だけが参加していて入っていきにくいイメージがある (30.9%)」の順となっていた。一方、「男性」では「自分の希望に合う講座や教室がない」をあげた人の率が 47.1%でもっとも高く、次いで「参加する時間がない、あるいは時間が合わない (38.2%)」、「公民館の講座や教室にそもそも興味・関心がない (29.4%)」となっていた。

相対的にみると、「参加する時間がない、あるいは時間が合わない」と「公民館の講座や教室は、決まった人だけが参加していて入っていきにくいイメージがある」では「女性」の、「公民館の講座や教室にそもそも興味・関心がない」と「自分の希望に合う講座や教室がない」では「男性」の率が高くなっていた。

次に年代別にみたのが、図 76 である。

その結果、すべての年代で、「参加する時間がない、あるいは時間が合わない」をあげた人の率をもっとも高く、次いで「自分の希望に合う講座や教室がない」であることは共通していたが、次いで「成人前期」の人では「公民館の講座や教室にそもそも興味・関心がない」、「成人中期」の人では「公民館の講座や教室は、決まった人だけが参加していて入っていきにくいイメージがある」、「成人後期」の人では「講座や教室の情報（内容・費用など）が得られない」、「興味はあるが一人では参加しにくい」、「自主的に活動したり民間施設を利用している」、「公民館の講座や教室は、決まった人だけが参加していて入っていきにくいイメージがある」となっていた。

相対的にみると、「公民館の講座や教室にそもそも興味・関心がない」と「講座や教室の情報（内容・費用など）が得られない」では「成人前期」の人の、「参加する時間がない、あるいは時間が合わない」と「公民館の講座や教室は、決まった人だけが参加していて入っていきにくいイメージがある」では「成人中期」の人の率が高くなっていった。

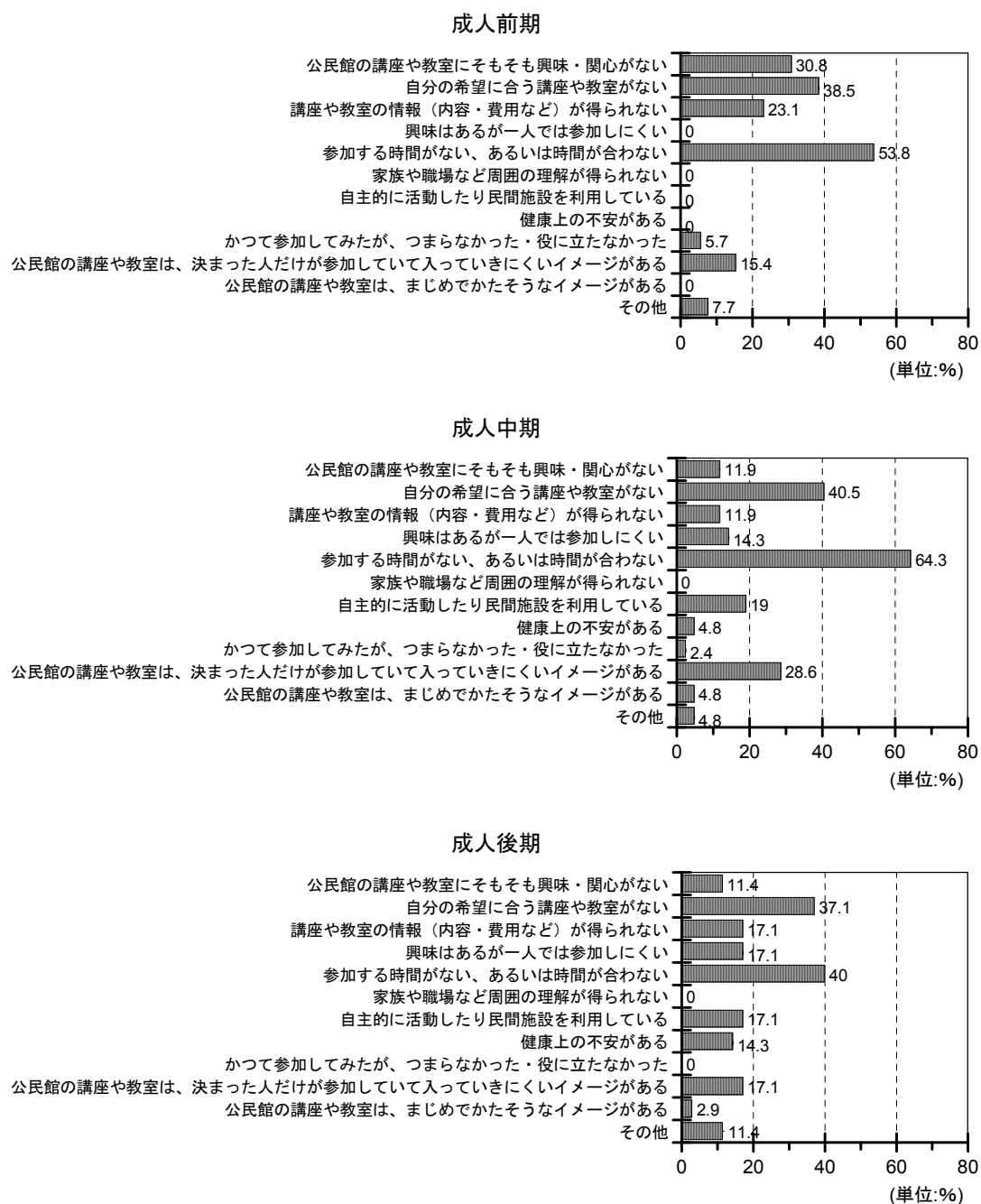


図 76 年代別にみた講座・教室に参加しなかった理由

(3) 公民館で今後開設してほしい講座・教室

今後、公民館で開設してほしい講座・教室をみたのが、図 77 である。

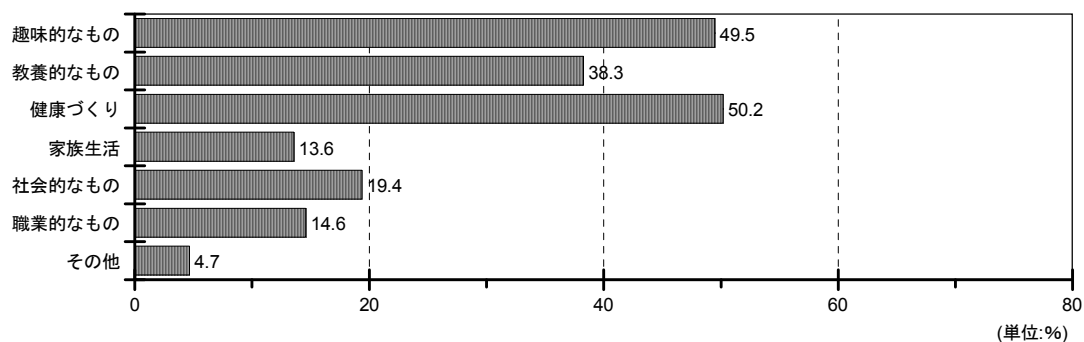


図 77 今後開設してほしい講座・教室

その結果、開設が望まれている講座・教室としては、「健康づくり」をあげた人の率が 50.2%で最も高く、次いで「趣味的なもの (49.5%)」、「教養的なもの (38.3%)」の順となっていた。これを性別にみたのが、図 78 である。

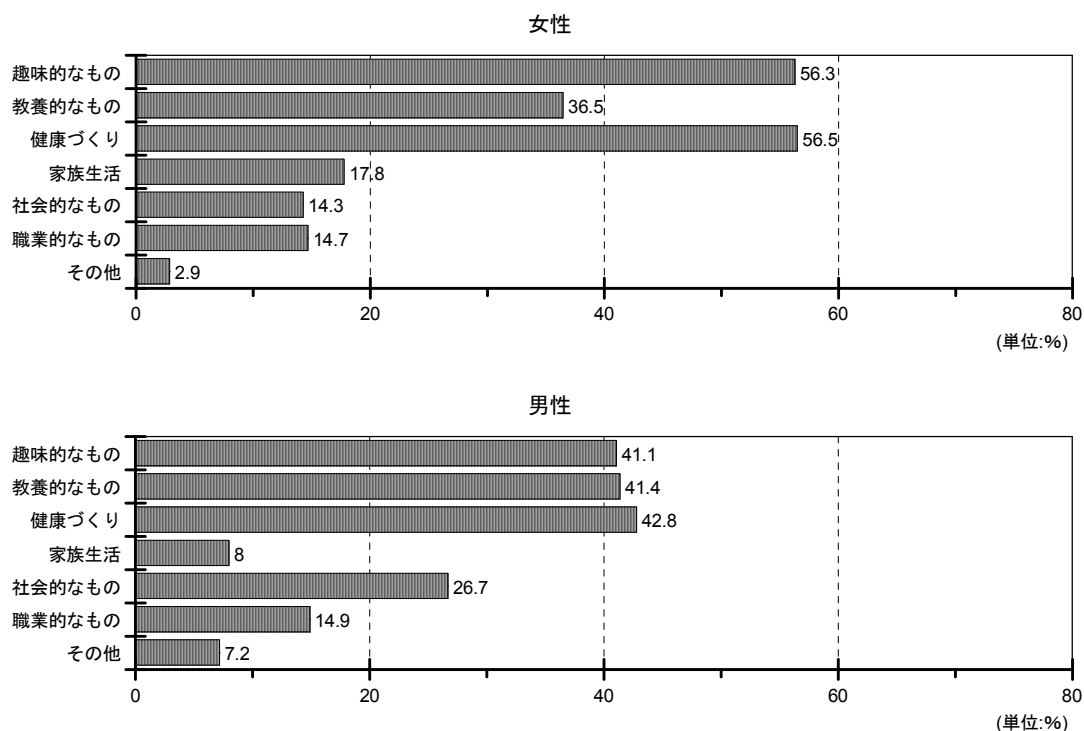


図 78 性別にみた今後開設してほしい講座・教室

その結果、男女とも「健康づくり」をあげた人の率も最も高いことは共通していたが、次いで「女性」では「趣味的なもの」、「教養的なもの」の順、「男性」では「教養的なもの」、「趣味的なもの」の順となっていた。

相対的にみると、「趣味的なもの」と「健康づくり」では「女性」の、「社会的なもの」では「男

性」の率が高くなっていた。

次に年代別にみたのが、図 79 である。

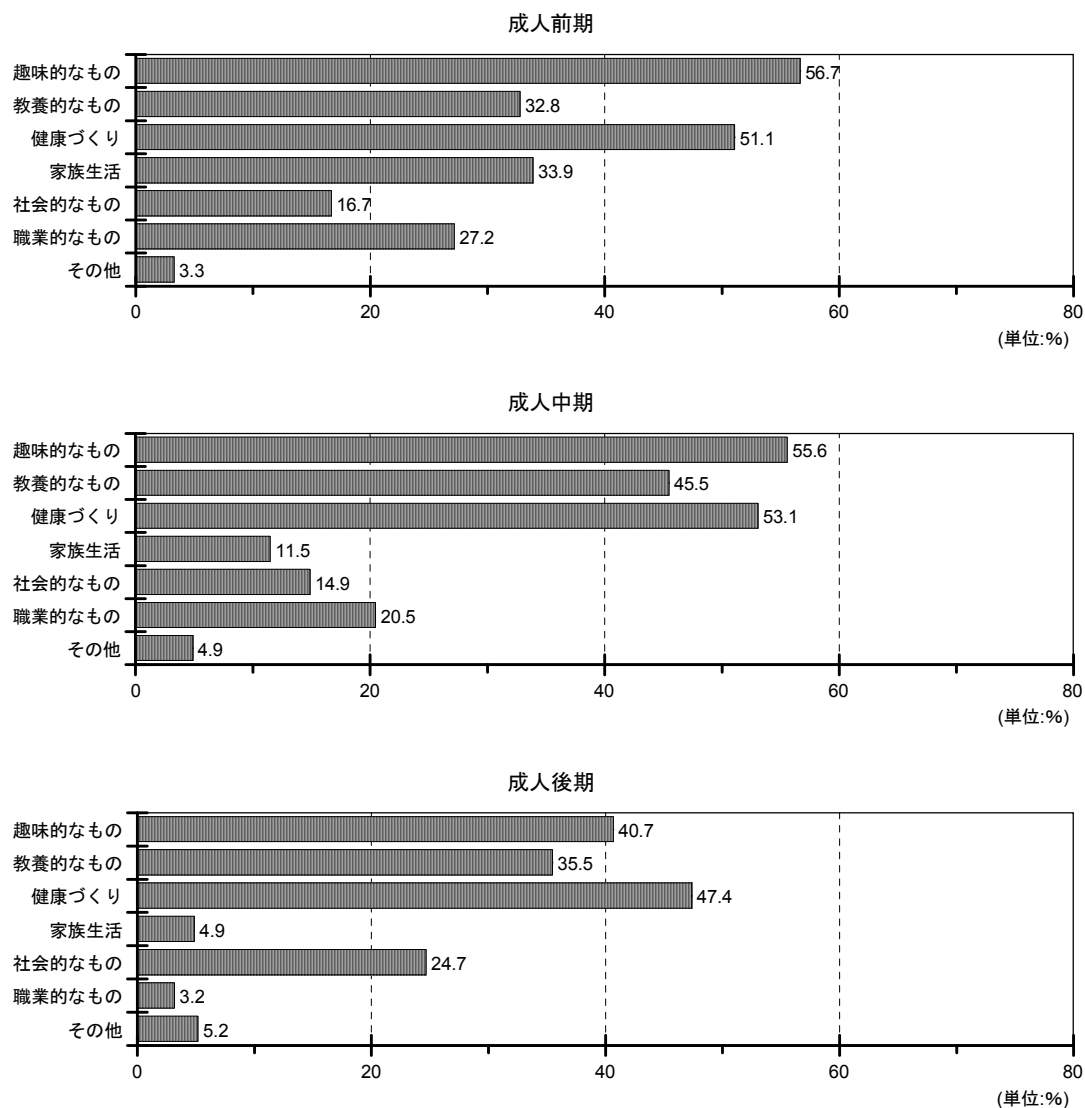


図 79 年代別にみた今後開設してほしい講座・教室

その結果、「成人前・中期」の人では、「趣味的なもの」をあげた人の率が高くて、次いで「健康づくり」であることは共通していたが、次いで「成人前期」の人では「家族生活」、「成人中期」の人では「教養的なもの」となっていた。一方、「成人後期」の人では、「健康づくり」をあげた人の率が高くて、次いで「趣味的なもの」、「教養的なもの」の順となっていた。

相対的にみると、「家族生活」と「職業的なもの」では「成人前期」の人の、「趣味的なもの」では「成人前・中期」の人の、「教養的なもの」では「成人中期」の人の、「社会的なもの」では「成人後期」の人の率が高くなっていた。

(4) 地域課題の解決やまちづくりと公民館

1) 公民館の地域課題の解決やまちづくりへの取り組みに対する評価

公民館の地域課題の解決やまちづくりへの取り組みに対する評価をみたのが、図 80 である。

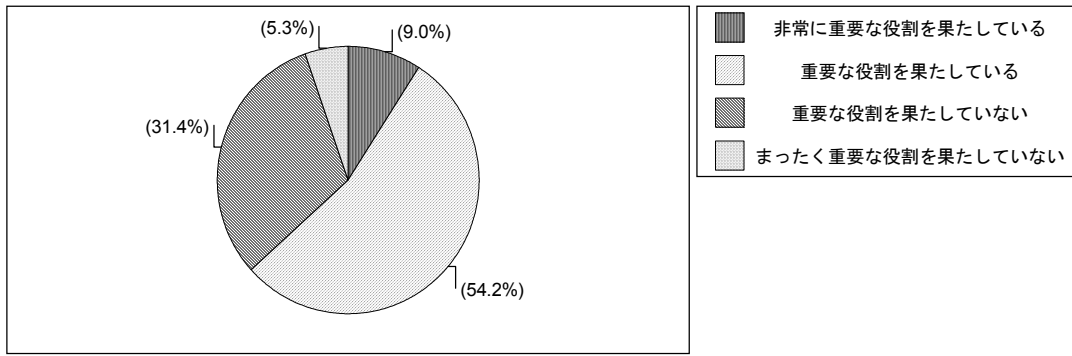


図 80 地域課題の解決やまちづくりへの取り組みに対する評価

その結果、「非常に重要な役割を果たしている」と回答した人の率は9.0%、「重要な役割を果たしている」人の率を合わせると、63.2%の人が、公民館の地域課題の解決やまちづくりに対する取り組みを評価していた。

これを性別にみたのが、図 81 である。

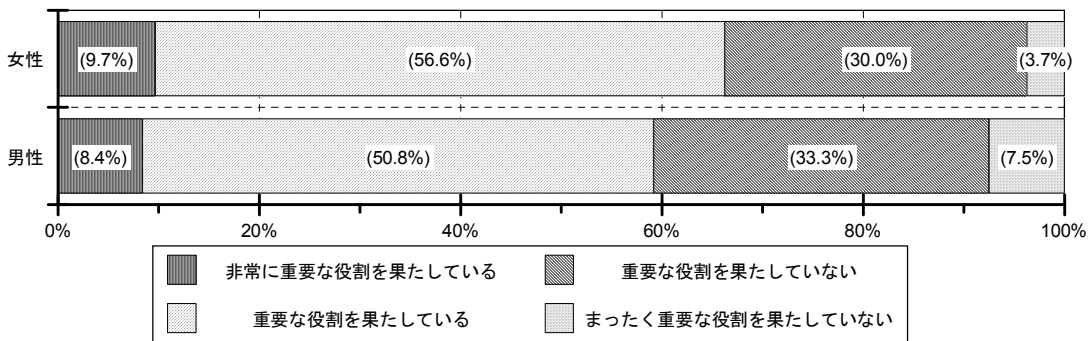


図 81 性別にみた地域課題の解決やまちづくりへの取り組みに対する評価

その結果、評価している人の率は、「女性」で66.3%、「男性」で59.2%であり、「女性」の率が高くなっていった。

次に年代別にみたのが、図 82 である。

その結果、評価している人の率は、「成人前期」の人で55.6%、「成人中期」の人で58.9%、「成人後期」の人で72.0%である、その率は、年代が高くなるにつれて高まる傾向が認められた。

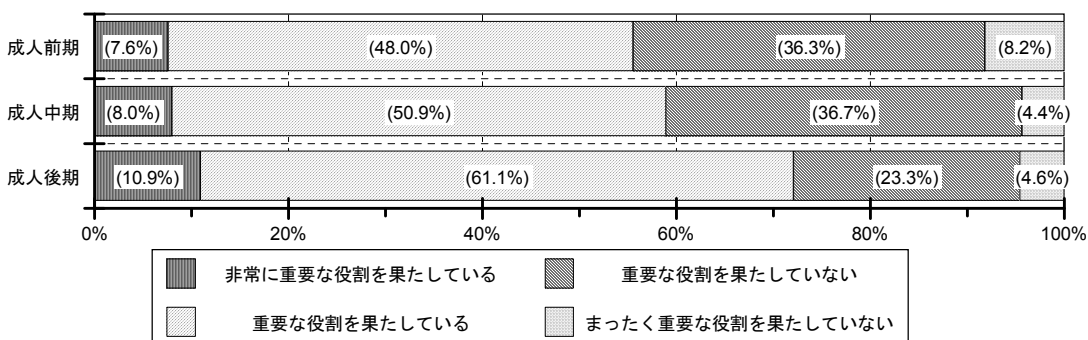


図 82 年代別にみた地域課題の解決やまちづくりへの取り組みに対する評価

2) 地域課題の解決やまちづくりへの取り組みに対する評価の視点

公民館の地域課題の解決やまちづくりへの取り組みについて、どのような点を評価しているのかをみたのが、図 83 である。

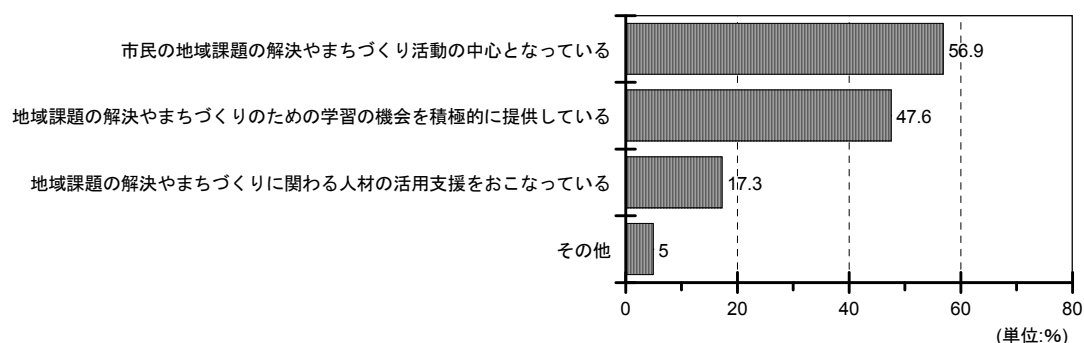


図 83 地域課題の解決やまちづくりへの取り組みに対する評価の視点

その結果、評価の視点としては、「市民の地域課題の解決やまちづくり活動の中心となっている」をあげた人の率が 56.9%でもっとも高く、次いで「地域課題の解決やまちづくりのための学習の機会を積極的に提供している (47.6%) 」となっていた。

これを性別にみたのが、図 84 である。

その結果、男女とも、「市民の地域課題の解決やまちづくり活動の中心となっている」をあげた人の率がもっとも高く、次いで「地域課題の解決やまちづくりのための学習の機会を積極的に提供している」となっていた。

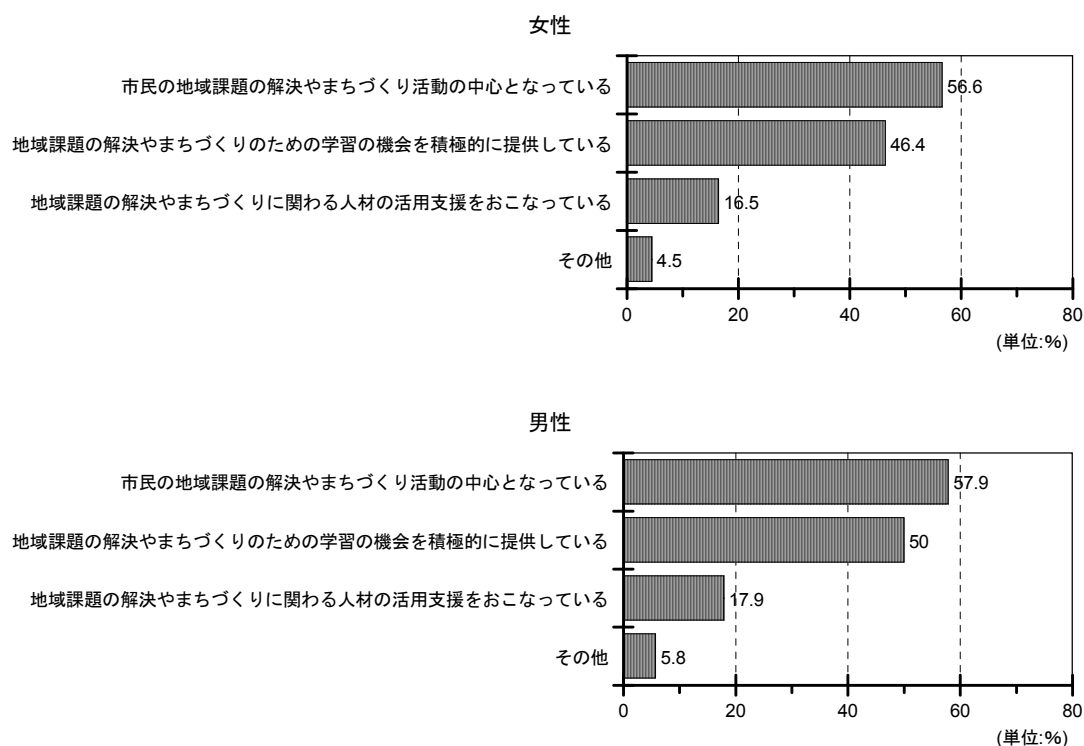


図 84 性別にみた地域課題の解決やまちづくりへの取り組みに対する評価の視点

次に年代別にみたのが、図 85 である。

その結果、「成人前・中期」の人では、「市民の地域課題の解決やまちづくり活動の中心となっている」をあげた人の率ももっとも高く、次いで「地域課題の解決やまちづくりのための学習の機会を積極的に提供している」となっていた。一方、「成人後期」の人では、「地域課題の解決やまちづくりのための学習の機会を積極的に提供している」をあげた人の率ももっとも高く、次いで「市民の地域課題の解決やまちづくり活動の中心となっている」となっていた。

相対的にみると、「市民の地域課題の解決やまちづくり活動の中心となっている」では「成人前期」の人の、「地域課題の解決やまちづくりのための学習の機会を積極的に提供している」では「成人後期」の人の率が高くなっていた。

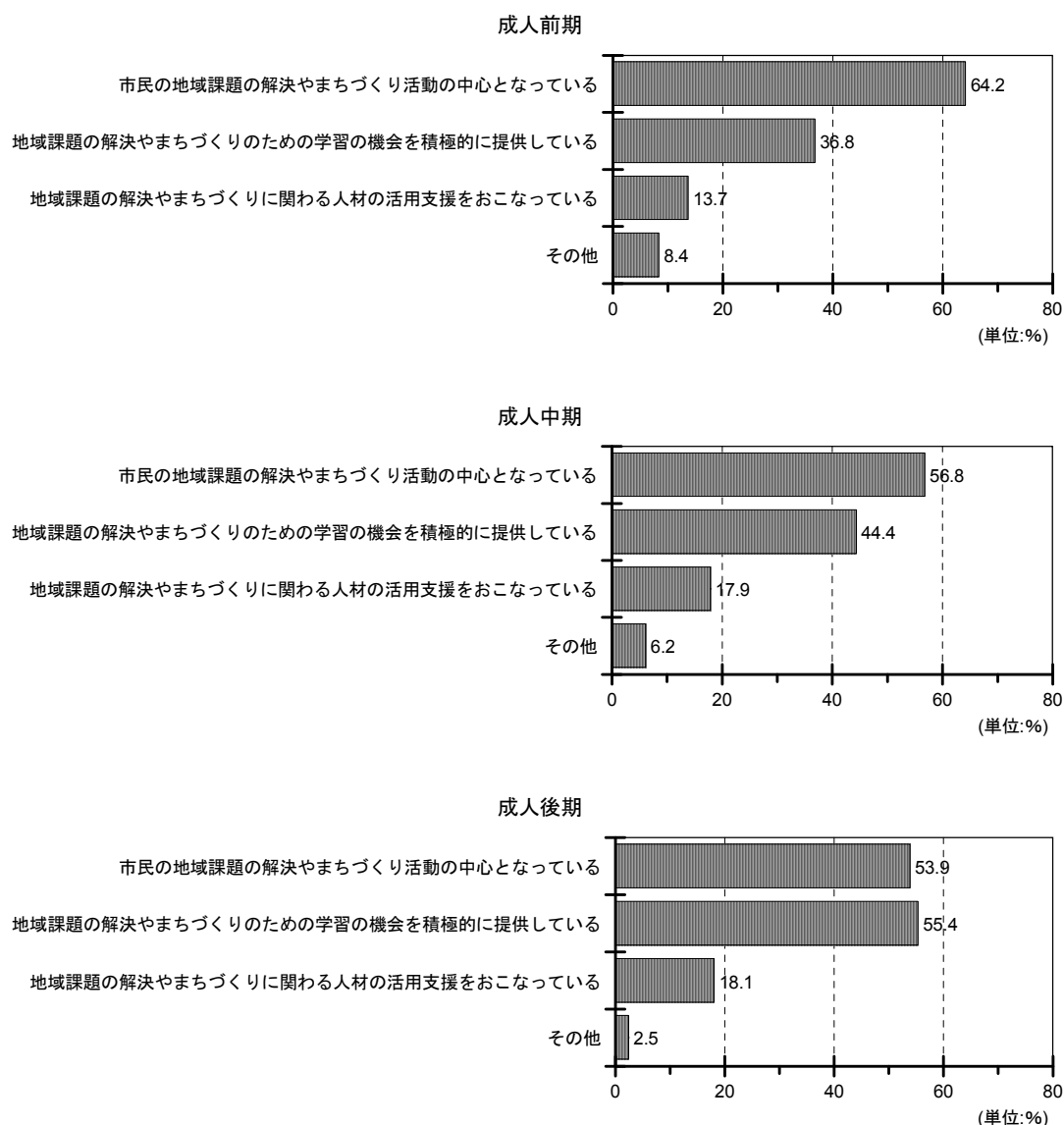


図 85 年代別にみた地域課題の解決やまちづくりへの取り組みに対する評価の視点